

設楽発掘通信

No.73
令和4年
9月号

下延坂遺跡の地元説明会開催します

今年の夏は天候不順に悩まされました。猛暑日が続いたかと思うと、急な大雨が降り、列島各地で甚大な被害に見舞われるニュースを目にしました。設楽ダム関連の発掘調査では、幸いにも天候不順による被害もなく九月を迎えることができました。

愛知県埋蔵文化財センターでは、地元説明会や成果報告会を開催しています。今年度は大崎遺跡の地元説明会を八月二〇日(土)、現在開催中(八月三十一日(水)から九月二六日(月)まで)の秋の埋蔵文化財展をとおして皆様に発掘調査の成果を公開しています。また、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡はWeb説明会を公開中です。詳しくは下記URLにアクセスしてください(<https://youtu.be/5kQymrwWMC>)。

さて現在の発掘調査の状況は、大崎遺跡は大詰めを迎え、下延坂遺跡は夏から本格的に発掘調査を開始しました。下延坂遺跡は冬にかけて発掘調査を予定していますが、調査中の成果を公開します。

つきましては、一〇月二九日の土曜日に、下延坂遺跡の地元説明会を開催することになりました。昨年度の調査では、縄文時代早期の土器と石器、縄文時代中期から後期の竪穴建物跡をはじめとする遺構と遺物が見つかっています。

開催に際しては、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に留意いたします。多くの皆様のお越しをお待ちしております。(永井宏幸)

下延坂遺跡 地元説明会 会場のご案内

10月29日(土) 午前11時～12時、遺跡現地で遺跡の説明と遺物の展示を行います。

ご参加の方々には、ご名前と連絡先のご記入をお願いします(感染予防対策以外には使用しません)。

※開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課(電話 0567-67-4163)、永井携帯(080-1571-4985)まで。

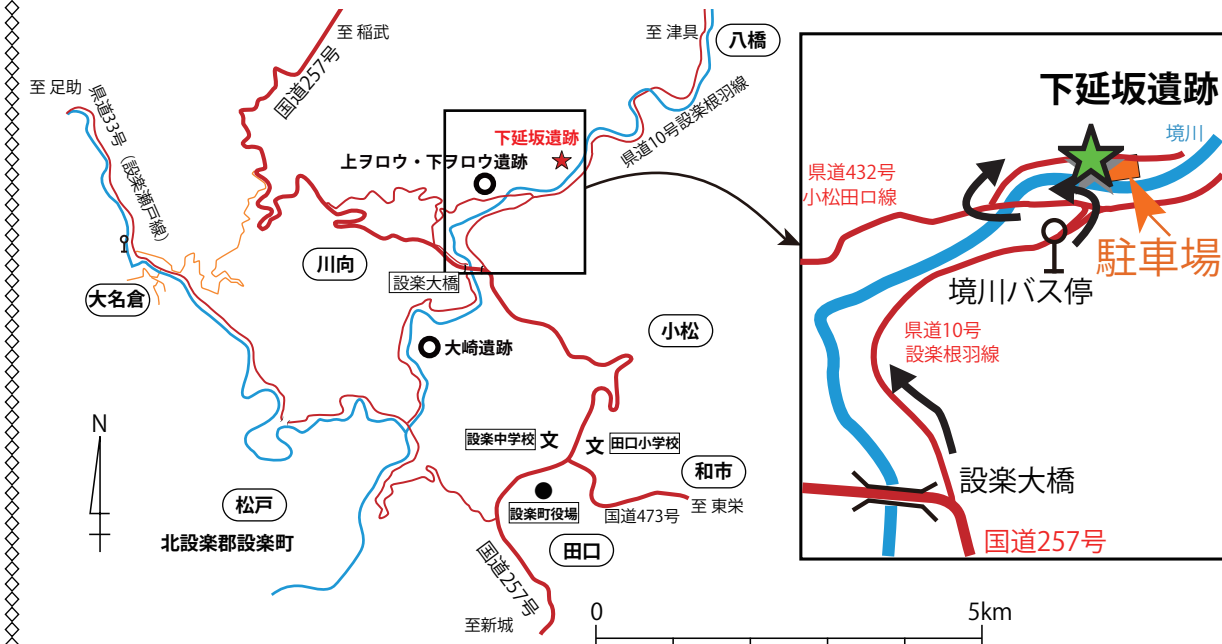


図1 下延坂遺跡地元説明会案内図

下延坂遺跡について

令和四年度の設楽ダムの発掘調査では一昨年や昨年に引き続き、下延坂遺跡の発掘調査を行います。

昨年の下延坂遺跡の発掘調査では調査区を三箇所に分けて調査を行いました(図2)。道路を挟んで西側の21A区では縄文時代晩期の土器埋設遺構が二基検出されました(図3)。また、その下層からは縄文時代後期の貯蔵穴が一基検出されています。道路を挟んで南東側の21B区では、縄文時代中期後半の石囲炉を伴う竪穴建物跡が二棟(図4)、それに伴う集石遺構が二基確認されました。また北東側の21C区では縄文時代中期〜後期の竪穴建物跡が三棟、重複して検出されました(図5)。さらに、それら縄文時代中期〜後期の遺構面よりも下層から、縄文時代早期の繊維土器や石器が出土したため、中・後期の遺構面より更に下層の二面目の調査を行いました。その結果、複数の複数のピット状の遺構と北から南へと流れる複数の自然流路と多数の石器が検出されました。

今年度の調査は昨年の21C区の西側を22A区、21B区の南側を22B区、22B区の南側を22C区と三区画にわけて調査を行なっています(図2)。22B区は昨年度の調査で既に縄文時代中期のものと思われる竪穴建物跡の一部が21B区の壁面で確認されているため、確実に竪穴建物は一棟は存在しており、他の竪穴建物跡も期待できます。また、昨年の21C区で確認された縄文時代早期の遺物を伴う自然流路の続きが確認できるかもしれません。

22C区はかつて行なった試掘調査では縄文時代後期の土器片を伴う遺構等が確認されており、昨年の21A区で確認された縄文時代後・晩期の遺物や遺構が期待されます。

発掘調査の成果は今後の設楽発掘にてご報告させていただきます。ご期待ください。（渡邉 峻）

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡について

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査は、七月一日に終了し、今年度の調査成果については、すでに『設楽発掘通信』第七一号でお知らせした通りです。ここでは、特に、北東側の平坦面について、まだお知らせできていなかったことを中心に、付け加えたいと思います。

北東側で広く見つかった平坦面には、戦国期から近世にかけて造成された整地層（5023SX）の広がりを確認していました。この整地層には、炭化物や焼土が多く含まれており、陶器・土器片が散在していました。図7は完全な形で出土した小皿で、内面には焼成時のトチンの跡が残されていました（図9の②）。集落の生活に伴う造成であるとは思われますが、建物跡などを検出することはできず、さらに後世の近世後半の埋葬遺構（キセルが副葬された墓坑）が一基見つかったのみでした。

この整地層を掘削すると、古い段階の土石流堆積層を確認することができました。この層を掘り込む



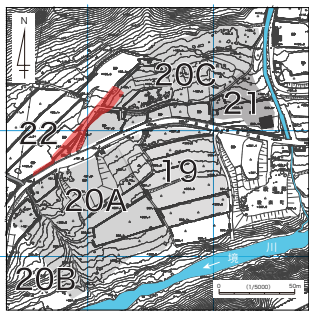
図7 整地層 5023SX 内出土陶器
【戦国期～近世、図9の②の位置】



図8 整地層 5023SX 下出土陶器
【中世前半、図9の③の位置】



図6 整地層 5023SX など土層断面【図9の①の位置】



上ヲロウ・下ヲロウ調査区位置図

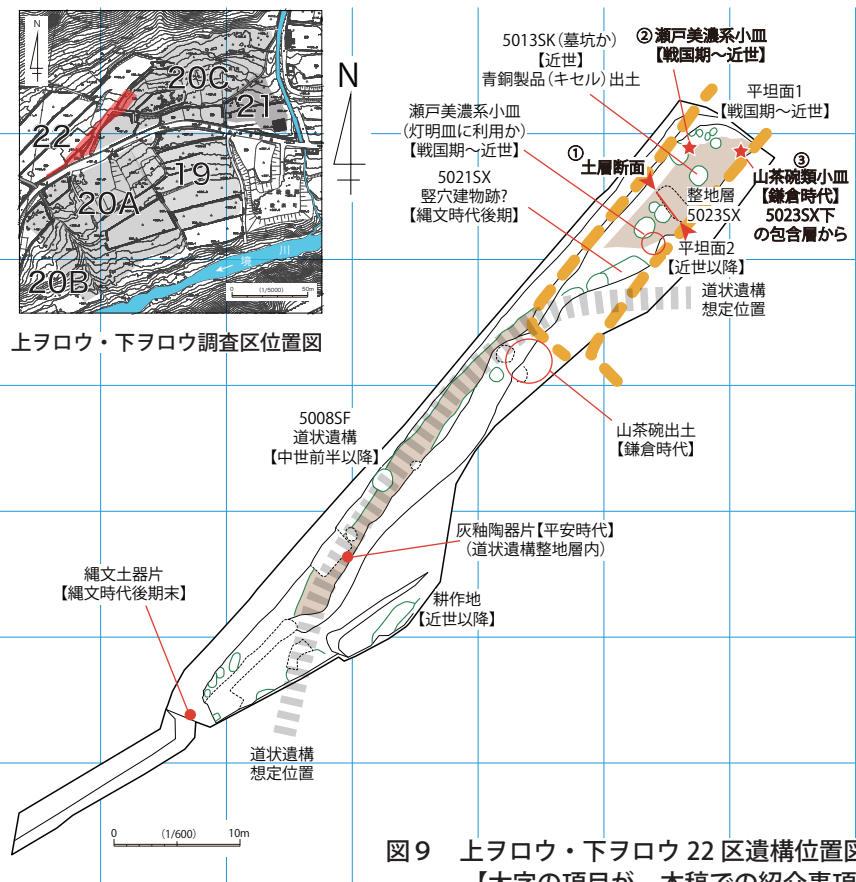


図9 上ヲロウ・下ヲロウ 22 区遺構位置図
【太字の項目が、本稿での紹介事項】

形で縄文時代後期の貯蔵穴が見つかったことから、堆積層の形成は縄文時代中期以前であることが推定されます。斜面下方の南東側に向かって、両者の層に挟まる形で、炭化物を含む砂層の堆積が確認されました。層中から、図8にあるように、山茶碗類小皿が四点まとまって出土したことから(図9の③)、この層が中世前半の包含層であることが分かりました。出土状況から、何かの祭祀の跡の可能性も考えられますが、『設楽発掘通信』第七一号で紹介した道状遺構の造成時期に対応する活動の場が実際に見つかったといえます。このことから、中世前半のヲロウ集落の跡の上に重なって、戦国期く近世の集落跡が形成されたものと考えられ、当地における中世から近世にかけての集落立地を考える上で、貴重な情報となったと言えます。(川添和暁)



图4 21 B区竖穴建物迹



图5 21 C区竖穴建物跡

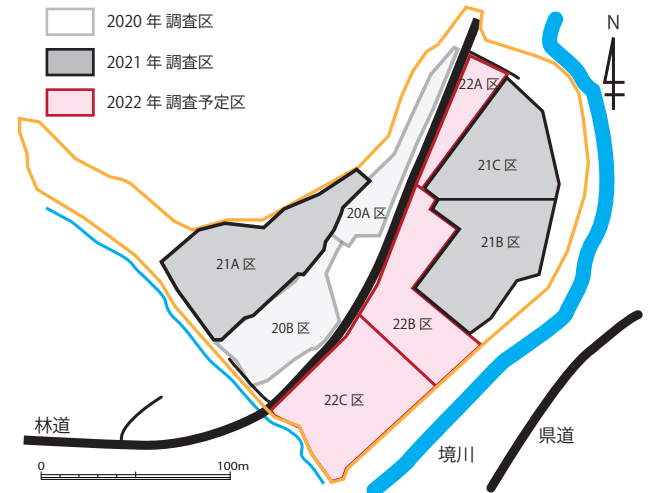


図2 下延坂遺跡全体図



図3 21 A区土器埋設遺構

まんぜ 万瀬遺跡の室内整理調査

令和元年度から三年間、設楽町での発掘調査を担当していた河嶋です。今年度は、万瀬遺跡の室内整理調査を担当しています。

室内整理調査では初めに、出土遺物のリスト化が行われます。ここで、遺物の点数、重さ、時期、産地などの基礎的なデータを整理し、どの遺物を図にして報告書に掲載するのかなどを決定します。今回、対象の遺物は一七〇〇点ほどにもなり、報告書にも六〇〇点以上が掲載される予定となっています。

表に遺物の集計結果をまとめました。出土遺物全体の約半分が縄文土器で、その中の八割ほどが縄文時代後期に属するものでした。

戦国時代から江戸時代にかけての陶器は多く、出土遺物全体の約四分の一がこの時期の陶器でした。その中を産地別に分けると、やはり近場の瀬戸・美濃産が多いようです。一方で、常滑や静岡の志戸呂産と見られるものもあり、京焼や唐津焼など西日本で生産されたものや、それに似せて造られた瀬戸美濃産の製品も少数ですが存在します。その他には、瀬戸・美濃産の磁器や伊万里焼、井戸を構成する木製品、鎌倉時代の鍛冶場から出土した鉄滓、昭和期のガラス製品などが出土しています。時期に加え、出土した場所などの情報を加えてい

くと、時期ごとにどの場所を重点的に利用していたかなどが分かってくる予定です。

これらの成果をまとめた報告書は来年度末に発行される予定です。

(河嶋優輝)

種別	点数	割合
縄文土器(草創期～早期)	76	4.5%
縄文土器(中期)	2	0.1%
縄文土器(後期)	673	40.2%
縄文土器(晩期)	92	5.5%
弥生土器	8	0.5%
土師器	82	4.9%
須恵器	1	0.1%
山茶碗	41	2.5%
陶器(古瀬戸)	3	0.2%
陶器(近世瀬戸美濃)	196	11.7%
陶器(近世常滑)	9	0.5%
陶器(近世志戸呂)	8	0.5%
陶器(近世関西系・唐津)	4	0.2%
陶器(近世産地不明)	224	13.4%
磁器(瀬戸美濃)	10	0.6%
磁器(関西系・伊万里)	24	1.4%
磁器(産地不明)	31	1.9%
木製品	77	4.6%
鉄製品	12	0.7%
その他	100	6.0%

図 10 万瀬遺跡出土遺物の内訳

設楽発掘通信

No.73

令和4年9月号

編集・発行 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力 株式会社アコード



図 11 万瀬遺跡出土の陶磁器